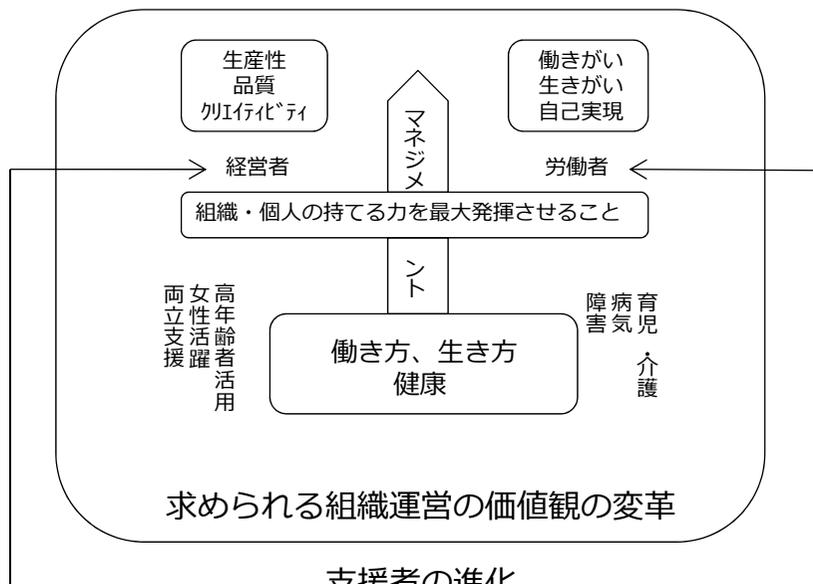


# 産業領域における保健師とソーシャルワーカーに関する考察

- 就業と家庭、社会生活の両立に際しての様々な障害、問題、全般に関わる個人の相談窓口としての解決支援機能を持ち、様々な専門家との協力、リファーを通じて問題解決につなげる
- 健康状態の改善・維持・向上支援に関する実践活動の推進者
  - ・労働者と事業者等が自主的に安全で、かつ健康に働き続けるための支援に努める
  - ・労働者個々人と組織を対象に公平・中立な姿勢を保つ
  - ・時代の変化に伴って雇用形態・立場が変化しても基本倫理を見失うことなく、柔軟に対応する

## 環境変化への対応 (組織のあり方、働き方)



女性活躍、高齢者活用、障害者雇用、両立支援等、いわゆる組織の多様化、インクルージョンに向けた問題の底辺には、組織存立の基盤でもある、その意義との対立構造があると考える  
(組織の保護、維持・成長・発展)

戦いに勝つために戦略や組織の意思の統一共有は不可欠であり、その構成員が均質的で同じような性質、正確を持つことは重要な要素であった

そこからより強い組織を作るために、特定の目的達成のための効率性、生産性といった価値指標(観)が時間をかけて発達、熟成され、今日の企業組織の文化になった

組織文化はそこで働く全ての人々に時代を反映して受け継がれ、人を労働力や生産性、効率性を実現する道具として見てしまうような、アコンジャバ イスが昭和の時代に定着した

みんな同じを良しとし、均質性を重視し、一人ひとりがユニークな個性であることは認めず、そういった存在は組織からはじき出す力が働いた

それが今、情報化の進展、価値観の多様化、そしてなによりも先行きが見えなくなったVUCAの時代を迎えて見直しの機会をむかえている

マイナスをゼロにする領域の活動から、+aの価値創造へ



支援者としての標題の2職種は、従来、組織のもとで働く個人の支援が中心領域とならざるを得ない構造にあったと思われるが、今後は、組織そのものにも働きかけ、変革の時期にある組織の進化を促すとともに、その中で働く個人の自立、強化をはかり、環境変化に向き合う産業社会、地域社会、個人の共存・維持、持続的成長、発展を促していく指命があるのではないか